

SHIN CLUB 65

(株) 東京港区谷区谷1-24-4 シブヤ百瀬ビル7F tel/03-3486-1570 fax/03-3490-1450 URL:http://www.osna.co.jp



O-house のバレエ教室

今月のトーク/monthly talk

パブリック・スペース

大人のバレエ教室がブームです。エアロビクスにもバレエを取り入れたスタイルのクラスが流行っています。

このたびは施工でご自宅を建てられた大田区のO様は、2,3階を居住スペースとし、1階をスタジオにして、奥様の趣味であるバレエの教室をオープンさせました。1年前から習い始められたバレエは本格的、プロの先生かと思ふほどスリムな体型の奥様に話を伺いました。

「一失しながら、趣味のバレエのさらなる上達をめざしていらっしゃるなんて聞いていたので、もっと普通の方を想像していたら、プロのダンサーのような方で驚きました。

「いえ、技術はまだまだですけど、日頃から忙しくしていますし、緊張感が大事です。私は専業主婦ではなくて、税理士の資格を取ったり、料理教室もやったり、家族の面倒ももちろん見ながらいろいろな仕事をやってきたんです。でも女がほんとに自分の時間を自由に使えるようになったと思ったら、50代に入っているんですね。」

「ほんとにそうですね。」

「バレエに出会って、信頼できる先生に会えて、今とても真面目にレッスンを受けています。先生にもまだたくさんレッスン料をお支払いできませんが、こちらの教室をオープンして、遠くから来てくださる生徒の方もいて楽しみです。バレエは、カラオケやフラダンスをちょっとやるというものではないの。ほとんどスポーツです。ものすごくきつい。そして芸術性があるもの。だから、教室にいらっしゃるお仲間は真摯な方たちばかりです。」

「レッスンを拝見して、皆様の身体の柔軟性や筋力のすばらしさに圧倒されました。

「実はバレエは手始めです。やりたいことは、地域の方の暮らしの向上、

文化の向上なんです。地域には一人暮らしの年配の方もいるし、子育て中の方もいる。ここを、そういう方が生き生きと楽しく暮らしていけるような場になりたいと考えています。私自身まだ勉強中だけど、将来は手軽なストレッチなんかが出来るところとしても活用するつもりです。お金かけて都心のカルチャーに通うのは、普通のお年寄りには無理でしょう。ワンコインで気軽に訪れることのできる教室にして、皆さんが寝たきりになることなく健康で快適な老後を送ることができるよう身体を動かす場所を提供したいんです。そういうことで近所のコミュニケーションが高まるし、お互いの信頼関係も築けると思います。」

「一日頃のご近所づきあいが、災害時の救命活動に大きく影響すると言われてますね。」

「工事の間、ご近所の方がよく観察されていて、『コンクリート造の建物で耐震性では絶対安心、地震のときはお宅の1階に逃げ込むからよろしくね。』と言ってくれているんです。私も『何かあったらスタジオの扉をオープンにして、ご近所の皆さんの拠点となるように提供するわ。』と伝えてあります。」

「ご近所の方たちも心強いですね。」

「良いフロアができて、気に入っています。あなたも夜の初心者クラスがあるので、ぜひお時間を作っていらしてください。」

最後の親切なお言葉に心が揺れましたが、それにしても会社や組織に属さなければ「社会参加」や「奉仕活動」ができないと普通ならあきらめてしまうところ、こうして個人的にスペースを提供し、さらに実践されている奥様にすっかり魅せられてしまいました。

○邸 新築工事

「スタジオのある家」

計画当時、クライアントはすでに別敷地にご自分で建設された賃貸マンションのうち3住戸を家族4人がシェアして住むという生活をとっておられ、家族の住まい方としては極めて自由なスタイルを実践されていた。従って計画は既存住宅の建て替えであるが、旧家屋は既に空き家となっていた。旧家屋は木造2階建て在来軸組工法の建築で、建物の南側を庭として開いているにも関わらず、間口に対して奥行きが深い敷地形状と、隣接建物に囲われている近隣条件が災いして、自然光による採光が不足していた。特に奥様が日中最も多く時間を過ごすダイニングキッチン空間に採光が採れていないことが問題とされた。よって南向きの採光だけで全館にくまなく自然光を満たすこと、南面以外の他の3面に開口がなくとも十分に風と光が抜ける断面計画を追求することになった。

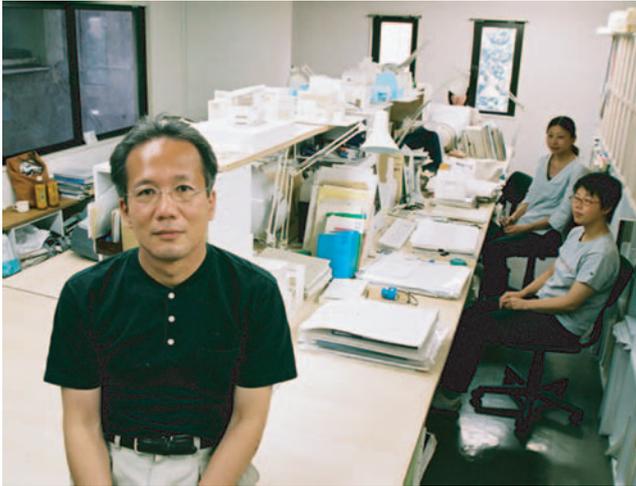
一方、自由なマンション暮らしを心地良く感じておられるクライアントがあえてもとの土地に戻って共に暮らそう、というからには設計に対する期待値としては相当高いハードルを課されているのだという緊張感を感じずにはいられなかった。その結果、「自分たちの住まいがダンス、パレエを通じて人々が集える場所になってくれたら」という夢の実現に向かって共に考えていくことになった。

幾度かのプラン練り直しの末、最終案は「地域に開かれた1階のスタジオから2階、3階の生活スペース、さらに屋上までが分断されることなく階段室を介してシームレスにつながる。」というかたちをとることとなった。
(桑原 聡)



所在地: 大田区
 構造: RC造 地上3階
 用途: 専用住宅
 設計: 桑原聡/桑原聡建築研究所

①外観昼景②外観夜景③2階から3階寝室への螺旋階段。壁には輻射冷暖房機器PSのHR-Cが設置されている。④2階から3階への階段。⑤2階リビングダイニング。手前左はエントランスに通じる廊下。造作家具の中段には仏壇が収納されている。キッチンも特注。可動照明用の溝が美しく並ぶ。⑥2階書斎。右側の造作家具がエントランスとの間仕切りになっている。⑦屋上。右手にはバスタブが設置され、屋上露天風呂が楽しめる。
(撮影: ナカサアンドパートナーズ)



荒木 毅(あらかし たけし) profile

1957年 北海道札幌市生まれ
 1981年 北海道大学工学部建築工学科卒
 1983年 同大学大学院工学研究科修了
 (株)レーモンド設計事務所勤務
 1989年 (株)アーキテクトファイブ勤務
 1990年 (有)アレフアーキテクトズ開設
 2000年 (有)荒木毅建築事務所に改称・主宰

主な作品

普通の家、Beams、屏風浦の家、CHシリーズ、Y's House(共同住宅)
 関原の家(リモデリング)、ほか

今月は、荒木毅さんの登場です。現在、辰では新宿区でRC住宅を施工中、まもなくお引渡です。

—荒木さんの住宅にはCHシリーズがありますが、プロトタイプをめざしているのでしょうか。

荒木:特に意図しているわけではないですが、狭い敷地や、廻りが密集して家が建て込んでいるという都市型住宅に与えられた条件を考えれば、「コートハウス」という選択はやはり一つ有効な回答だと考えています。

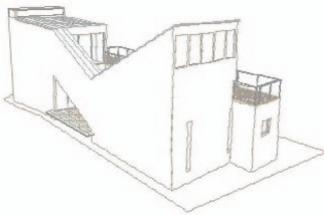
建てるときに南側に庭があって、敷地の北側に建物を配置するという、これまでのごく普通の方法では、都心の限られた敷地では庭先に隣の家の裏側部分があって見た目も悪いし、プライバシーも確保できないですね。コートハウスにすることで、光も、より多く取り入れることができます。

本体以外の躯体は平屋として、南北2棟配置するのが基本。

「南棟」は北勾配として軒を下げ、高窓を設けて、隣家に邪魔されることなく太陽光を取入れる。

「北棟」は2層として、「中庭」を介して十分太陽光を取込む。「階段」は南から北に上る直階段として西方向からの太陽光の差込を邪魔しないようにする。

「東棟」は平屋として、東方向から中庭への太陽光の差込を邪魔しない。



CHシリーズ 基本コンセプト

CHシリーズとしているのは、ある程度の条件がこれらにあった場合、つまり共通のスタイルを持ったものについて、後から番号を与えているだけで、ゆるいプロトタイプといえるかもしれないですが、特に積極的に作ることを意図してはいません。

—今日のくらいの件数ですか？

荒木:今10番まで来ているけど実現しなかったもの2つが欠番かな。

—木造がほとんどですか。

荒木:そうですね。やはり、ローコストで建てたいというお客様は多いですから。

—HPを拝見すると、「ある価値基準の編の目を通過していない」ということは、未来を予見する様な希少な内容が存在する可能性も、そこにはあるのではないかとありましたが、インターネットも積極的に利用なさっているようですね。

荒木:HPだけでなくブログもやっています。現場情報の更新や日記などで、タイトルは「今日の事務所」(笑)。そっちの方が人気あるかな。忙しいときはなかなか更新できないけどね。

僕の場合、ごく普通のご夫婦が建てたいという家の設計が多いですよ。僕の作品の掲載雑誌を見て、電話でご相談があってというパターンが多いですね。

—最近では都心でデザイン性のある機能的な小さな住宅を提供する新しい動きがありますが、大きめの敷地を細分化することに対し、ただの「ミニ開発」という批判もあつたりするじゃないですか。

荒木:狭小住宅といわれても都心ではしょうがないでしょうね。まとめて設計してゆけばいいんですけどね。以前、世田谷の羽根木公園の近くで僕と2人の女性建築家、計3人の設計者でほぼ同時期に隣接する住宅を設計する機会があって、それぞれが建物の間の空間を意識し、光を反射する壁

にして隣の家の採光に配慮したり、pavementや植栽を統一したりしたことがありました。なかなかそういう機会はないですけどね。

—施工もまとまってくると、コストが下げられるので、施工会社も仕事がしやすいという面がありますね。

荒木:小さな敷地というのも面白いんですよ。施主がもともと持っていた考え方を1度チャラにしてあげて、もっと一つの家族としてのあり方や場所を充実させることを提案する。そんなに大きな空間ではなく、適度な広さがあればいい。子供の個室は誰だってほしいけれど、そこで何をするのかをじっくり考えていけば、閉じこもるような部屋を用意するより、家族皆で過ごすこと、それぞれの気配が感じられる空間が効果的です。

ただ、設計する側としては40代後半になってきて、仕事の密度もだいぶ濃くなってきたせいで、何かとコストが上がりがちですね(笑)。快適さについても世間の要求レベルが高くなって、床暖房・ペアガラスは当たり前の世界になってきたから、予算内に収めるのが大変です。

—事務所は女性スタッフが多いのですね。

荒木:今正社員4人中3人が女性です。長年勤めてくれていた槻岡佑三子が秋に独立して同じ事務所内にいます。女性は真面目で細やか、助かります。でもあまり女性に囲まれてもどうかと思いますので、今度男性を一人入所させました。

—影響を受けた建築家の方はいらっしゃいますか。

荒木:やはり、事務所に勤めさせていただいた、アントニン・レーモンド氏でしょうね。(Antonin Raymond 1988-1976)戦後、日本で活躍したモダニストの一人で、本当に空間を知っている方だと思います。例えば、出窓一つにしても日本人の美意識じゃあり得ない考え方をされています。形式に陥っておらず、かといって装飾的でもなく、ある意味プリミティブな部分を残しているデザインなのです。日本人の傾向としてよくある、だんだんとモノが形骸化して薄っぺらくなったりする部分がないんですね。

それから、僕の親父も設計士だったものですから、絵が好き、美術好きという性格は子供の頃からのものですね。ただ、学校では数学や生物の方向も考えていたんですけどね。

—事務所は早稲田にありますか、ご出身は北海道で、北大でいらっしゃいますか。

荒木:親元から飛び出したいという思いがあって。それから大学の先輩がまだ一人もいない事務所に勤めたいとも思い、東京に出てきました。もう20年以上も前ですが。

—今後のご予定は？

荒木:そうですね、今回のようにたまたまRC造をやると新鮮でいいですよ。

木造の工務店さん、大工さんとの仕事は、だらだら続くというか、裁量を現場任せにすることも結構ありますが、今回辰さんとRC造の仕事をして、質疑応答などが細かくきちんとしているので感心しました。

それから、規模ももう少し大きいものもやってみたいですね。ローコスト住宅や狭小住宅を専門にしているわけではありませんからね(笑)。豪邸もやりたいですよ。

—どうもありがとうございました。



CH-7 ©篠澤裕

「目に見えないからおもしろい」

株式会社 片桐電気
代表取締役

片桐 和也氏

今月は電気工事の「片桐電気」に伺いました。片桐社長は今51歳、埼玉県志木市の事務所では、毎日たくさんの図面を確認しながら、現場に電話で指示を飛ばしています。先ごろ、長男の大介さんも入社、現場での実務に励んでいます。

細山田：出身は新潟とのことですが、上京してきたのはいつ頃ですか？
片桐：23歳の時。18歳でいったん東京の電気工事会社に就職したけど、新潟事務所に移って、また上京して一。厳しかったですよ、新婚時代だったけど、図面の見積りに明け暮れて。いったん帰宅しても、また呼び出しがかかるの、「なんだか見積図面が机の上に溜まってぞ」ってさ。

細山田：その状態は、今でもあまり変わらないかな(笑)。うちからいっぱい図面を送ってお願いしてるからね。

片桐：そうこうしているうちに、会社が倒産したので、職人として独立して、最初の1年は身体を鍛えられましたよ。腕があがらないくらい。それから受注した会社からの見積依頼、図面書きなどもずっと続けてきて、平成3年、会社を作りました。

細山田：うちのお付き合いの始まりは、平成5年くらいでしたね。浜町の現場と、僕が初めて一人でやらせてもらった仙川の現場がその年なので、よく憶えていますよ。

一電気工事は、施工工程の最初から最後まで参加しなくてはならないので、打ち合わせが大変だと聞いています。

片桐：電気屋とペンキ屋、設備屋が最後まで現場にいるね。

一それに技術の進歩の度合いが激しいですし・・・。

片桐：日々勉強ですよ。材料なんか、多くて覚えられない。特にテレビやLANです。テレビでは、CS,BS,今ではデジタルと変動が激しいし、LANの勉強も大変ですよ。エアコンなどの家電もまた違うから。エアコンは量販店で頼んだほうが安いかもしれないと言っているんですよ。

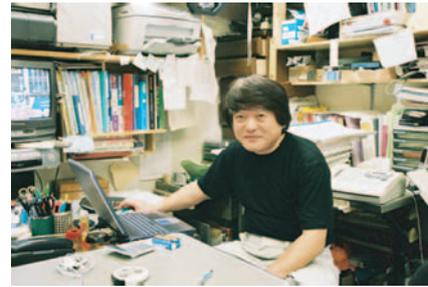
一最初の打ち合わせから、照明など最後に変更したくなるお客さんも多いでしょう。

片桐：住宅は大変。変更の連続ですよ。コンセントの移動なんか、簡単に考えている人が設計の先生にもいるけど、そんなすぐにできるもんじゃないよ。コンクリート造だと、まず躯体に配線するところを打ち込んで、毎回定例に出て、図面どおり作っていく。それなのに、最後に変更と言われると、「あの日々は何だったのか」とがっくり来る(笑)。

細山田：大空間で天井も壁もなく、その壁も打ち放しのコンクリートやガラスだったりすると、配線を通せる場所が少ないため大変です。

片桐：それで結局現場に行って、どこに線引くんだよ、ということになる。いやー、まいりますね。

一設計の先生も電気工事のことをもっと考えて、ということですか。



片桐和也 代表取締役

事務所の机の手の届く範囲にパソコン、図面、電話、電卓と全てのアイテムをそろえ、奮闘中。好きな釣りも最近は無沙汰らしい。オートレースにも行きたいとのこと。

写真右：現在施工中の現場での通線工事。中央の設備室がメインの配線場所。鉄板の床、ガラスの壁、最適な場所を探す。



写真左：工事部長の中川一夫さん(右)と総務部の片桐大介さん(左)。



片桐：いや、こちらが何とかやらなくっちゃ。

細山田：意匠とのせめぎあいですね。

一電気工事には危険も伴いますね。

片桐：昔「短絡」させて、手で爆発したことがありましたよ。キュービクルの中で(※)。若い頃ですが、目をやられて、1週間白いものしか見えませんでした。

細山田：ほんとに危険だと思いますよ。

一ソーラシステムやオール電化の家、エネルギーも燃料電池だとか、いろいろな技術が出てきているからますます勉強が増えますね。

片桐：電気は目に見えないから面白いんだよ。「電気は絶対嘘つかない」(笑)。配線を間違えていると点かないからね。だから電気は最高だよ。

一どうもありがとうございました。

※キュービクル(Cubicle)は、もともと“立方体”を意味する“Cube”から派生した言葉で、“小屋”“小室”“箱”のことです。受電用の機器を極力整理簡素化して、これに配線し、接地した金属箱内にコンパクトに収めた高圧受電設備のことを言います。

TOPICS/INFORMATION

「ZENグループ オアフクラブ 全日本実業団水泳競技大会にて団体2連覇達成」 7月30、31日 於：長野市アクアウイング

弊社グループ会社、オアフクラブ<現在、(有)ライフポート>のスタッフが、(株)ZEN HOLDINGS所属で出場した「全日本実業団水泳競技大会(主催：日本水泳連盟)」で、好成績を収めました。

- 《団体》年齢別(30歳以上の部) 優勝(2位TOYOTA、3位神戸市役所)
年齢別 200mメドレーリレー 優勝(大会新)
《個人》(一般男子) 河本耕平 100m自由形 優勝
100mバタフライ 優勝(大会新)
(40歳以上) 坂大平 50m自由形 優勝



喜びの入賞者とチームスタッフ

団体成績(30歳以上)の優勝は昨年に続いて2度目。この大会は野球でいえば都市対抗野球大会に相当する、社会人水泳大会としては国内有数の大会です。上記以外にも多数の入賞者が出て注目の的だったとのことでした。

編集後記

・現在熱海で施工中の建物を見学に行ってきました。杉板の型枠使用のコンクリート打設が意匠的に面白く、出来上がりが楽しみです。訪れた熱海は、往年の賑わいはなく、土曜日というのに夜7時にはアーケードのほとんどの店が閉まっています。海岸前のメインストリートにあった老舗の旅館・ホテルはほとんどが解体され、今は更地になっていて、次なる大規模施設の建設を待っているところでした。